

「宮城の将来ビジョン」における体系	政策名	4 アジアに開かれた広域経済圏の形成	政策担当部局	経済商工観光部、企画部、土木部
			評価担当部局	経済商工観光部

政策の状況

政策で取り組む内容

中国をはじめ成長を続ける東アジアや極東ロシアを中心に海外市場開拓の機会が拡大しており、県内企業の海外販路開拓を積極的に支援します。さらに、県内産業の競争力の強化に向け、工場や研究所などの外資系企業誘致も積極的に進めます。

また、経済のグローバル化が進む中で、東北地方以外の他の地方との競争に打ち勝ち、自立できる強い経済基盤を持つ地域を作り上げていく必要があります。県を単位とした範囲のみでは限界があることから、東北各県との連携及び機能分担により広域経済圏を形成し、圏域として自律的に発展できる産業構造を構築します。

特に、山形県との連携については、仙台、山形の両都市圏を中核とする一体的圏域が高次の学術機能、産業創出機能や広域交流のネットワーク基盤を有することから、グローバルな戦略を進めていく上で、東北の成長・発展をけん引する役割を担うものとして重要です。両県において将来像を共有しながら、岩手県や福島県とも効果的な連携を進め、アジアに開かれた広域経済圏の形成を図ります。

政策を構成する施策の状況

施策番号	施策の名称	事業費 (決算(見込)額、施策の事業費合計)	目標指標等の状況	現況値 (測定年度)		達成度	施策評価
				現況値	達成度		
8	県内企業のグローバルビジネスの推進と外資系企業の立地促進	81,704千円	宮城県の貿易額	11,000億円 (平成19年度)	A	概ね順調	
			企業立地件数(外資系企業数)	12社 (平成19年度)	B		
9	自律的に発展できる経済システム構築に向けた広域経済圏の形成	6,011,932千円	宮城県の貿易額(再掲)	11,000億円 (平成19年度)	A	順調	

※目標指標等の達成度 A:「目標値を達成している」
 B:「目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と同方向に推移している、又は現状維持している」
 C:「目標値を達成しておらず、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と逆方向に推移している」
 N:「現況値が把握できず、判定できない」

政策評価(総括)

政策の成果(進捗状況)	評価	評価の理由・各施策の成果の状況
・各施策の成果等から見て、政策の進捗状況はどうなっているか。	概ね順調	<ul style="list-style-type: none"> ・アジアに開かれた広域経済圏の形成に向けて、2つの施策で取り組んだ。 ・施策8で海外展開を目指す県内企業に対し、海外ビジネスに関する実践的・専門的な講座や個別相談、海外現地ビジネス情報の提供などの支援を実施したほか、海外事務所において情報提供や活動支援を実施。また、香港・台湾で商談会・見本市を開催したところ、目標を上回る参加企業・商談件数となり、県内企業のグローバル化は概ね順調に推移している。なお、外資系企業の立地件数は現状維持であるが、立地には至らないものの、営業所の開設及び本県の企業との協業契約の締結などの進展をみせている。 ・施策9で「とうほく自動車産業集積連携会議」(東北6県で構成)主催の自動車関連メーカー向け展示商談会を行ったほか、他県との海外事務所共同設置や共同展示商談会を開催するなど、広域経済圏の形成は順調に推移している。 ・以上のことからアジアに開かれた広域経済圏の形成は概ね順調に推移している。

政策を推進する上での課題等 ※施策の必要性・有効性・効率性の観点からの課題等

・施策8の県内企業のグローバルビジネスの推進については、相手側の選択とニーズの把握が必要である。また、外資系企業の立地促進について、東北大学サイエンスパークの開設(H23予定)が、研究開発型外資系企業の進出にインパクトを与えるものと期待される。

・施策9の自律的に発展できる経済システム構築に向けた広域経済圏の形成について、現在進んでいる自動車関連産業など個別業種だけではなく、官民全体として広域連携の重要性を認識し、効果的に施策展開するよう取り組む必要がある。また、高規格幹線道路等についても、社会情勢に対応して整備を進める必要がある。